



空は高くなり、涼やかな秋風が吹き始めました。
季節は、夏から秋に進んでいます。
今月は、「配慮が必要な人と医療」をテーマに
開催した研修会を中心に、ご報告します。



「配慮が必要な人と医療」研修会

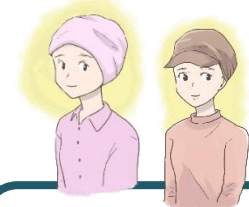
2024年9月12日(木)、聞こえないあるいは聞こえにくい人が医療機関を利用する場合のコミュニケーション課題をテーマとして、研修会を開催しました。当日は、当事者や手話通訳者にも参加してもらいました。当事者からは、受診時いつ順番を呼ばれるかわからず常に緊張していることや、筆談の内容を理解するのが難しい場合があるため、わかったふりをしてしまうことなど、医療機関を利用する場合の課題が報告されました。一方、看護師さんが手話で「お大事に」と言ってくると、「病気が治った気がする。」という事例も発表されました。

コミュニケーション支援ボード |

(公財) 明治安田こころの健康団 HP より

また、有効なコミュニケーションツールの一つとして、「コミュニケーション支援ボード(上記資料)」が取り上げられました。「コミュニケーション支援ボード」は、絵を指さすことで意思を伝えることができるため、分かりやすく使いやすいようです。病院や薬局、公共機関などに加え、災害時には避難所で、迅速に意思を伝える方法として活用できそうです。地域に普及することを期待したいと思います。

研修会では配慮が必要な人への理解が深まると共に、手話に対する関心も高まりました。参加した医療関係者の何人かは、研修会後に手話が学べる「医療班学習会」にも出席しています。誰もが安心して利用できる医療機関、安全に暮らせる地域を考えるきっかけとなる研修会になりました。



ケア帽子有志の会「中国新聞」で紹介

がん患者さん・家族・支援者のつどい こころの駅舎には、3年前に乳がん患者さんの発案で「ケア帽子有志の会」が誕生しました。抗がん剤治療中は副作用で脱毛する人も多く、帽子が手放せなくなります。そうした患者さんに、自らの経験をもとに、肌触りが良くかぶりやすい帽子を作ってプレゼントする活動を続けています。この活動が、2024年10月2日(水)の中国新聞で紹介されました。新聞掲載をきっかけに、有志の会の仲間が増えました。ケア帽子には、有志の皆さんのあたたかな心がつまっています。

